

2017年 12月 25日

## 【コラム⑩】～旅レポート～恋人たちの聖地「アマスィヤ」

キラキラと光るイルミネーションに恋人たちが賑わう12月。クリスマス近くになると日本の都会はイルミネーションで彩られ、様々な場所が突如恋人たちの聖地として様変わる。実はトルコにも恋人たちの聖地として知られる場所があるのはご存じだろうか。黒海から車で2時間程の距離にあるアマスィヤ（Amasya）は、反り出る崖の下にオスマン時代に建てられた民家が並び、民家の前には雄大なイエシル川が流れている歴史ある古都である。険しい岩山には古城を、断崖には岩窟墓を見ることができる。初めてアマスィヤに降り立った時、息をのんだ。これほどまでに自然と人工物が見事に調和した風景を見たことあっただろうか…まるでおとぎ話の世界のような不思議さがあり、それでいて可愛らしい町である。この町が恋人たちの聖地として知られるようになったのは、ある悲しい恋物語が始まりであった。



昔、フェルハットという水道堀り職人と王女であるシリンが出会い恋に落ちた。しかしシリンの父親は結婚に反対し、結婚を認める代わりにフェルハットに難題を出すのであった…岩を断ちアマスィヤまで水路をひくことができれば結婚を認めてやろう…身を粉にして働き、成功を目前にしたフェルハットに父親はシリンが病死したというウソをつく。悲しみのあまりフェルハットは自殺。そしてそれを聞いたシリンも後追って自ら命を絶ててしまったのであった。この物語には諸説あるが、どれも胸を打つような悲しい物語ばかりである。この物語はトルコにおいて有名で、アマスィヤの町近くにフェルハットとシリンの記念碑まで建っている。週末になると結婚を控えたカップルが訪れ、フェルハットとシリンの恋物語に想いを馳せる。

トルコ男性の告白の言葉に「フェルハットのように君を愛している」という言葉があるのだそうだ。

このアマスィヤが恋人たちに好まれる理由はほかにもある。この場所は夜景スポットでも有名であり、夕暮れ時から夜にかけて町全体がオレンジや青、緑へとライトアップされる。丘の上のレストランに行く途中の道では、美しい夜景を見ようとたくさんのカップルが



集まっていた。丘の上にあるレストランにて、この夜景を見ながら頂くアマスィヤ名物のパトルジャンケバブ (Patlıcan Kebabi・ナスのケバブ) はとても美味しかった。パトルジャンケバブにはラムとビー



フがあるのだが、今回はラムを頂いた。肉は大きくラム特有の香りは少なく、非常に食べやすい。味付けは大粒の塩のみでしており、じりじりとした触感も楽しい。しかし決して塩辛くなく肉とよくなじんでいる。皿には肉とともにナス、ジャガイモ、トマトと添えられており、見た目も鮮やかで嬉しい。ジャガイモはさつまいものように甘く、ナスはねっとりとしたコクがあった。大変満足いく一品である。

アマスィヤはショッピングも楽しめる。イ

ェシル川にかけられた橋を渡り、ハゼランラルコナーウ民俗博物館 (Hazeranlar Konağı) に向かう道にはお土産物屋が並び、活気に溢れている。マスカットリングが有名なアマスィヤにはリングにまつわるお店もたくさんある。一つ1リラ (33円程) で販売していたリングを店頭でかぶりついてみた。噛んだ途端あふれる果汁がみずみずしい。甘酸っぱく美味しかった。

古民家を改装したハゼランラルコナーウ民俗博物館は、オスマン時代の暮らしを再現した博物館である。オスマン時代に建てられた建物の中には当時の暮らしが忠実に再現されている。階段をのぼると、華やかな衣装をきた女性たちの人形が編み物をしていたり、談話している様子が再現されている。当時の女性衣装、特に花嫁衣裳にはとても優雅で細かい刺繍が施されており驚いた。



1月7日(日)に放送されるBS-TBS番組「トルコ大紀行」エピソード5(11:00~11:54)では一部アマスィヤを紹介している。折りしも12月、日本でもきらびやかなイルミネーションの世界が広がるが、この機会にトルコ・アマスィヤで大切な人と観てみてはいかがだろうか。(アマスィヤ 2017年8月訪問)

トルコ共和国大使館・文化広報参事官室広報代理店  
株式会社フォーカス